

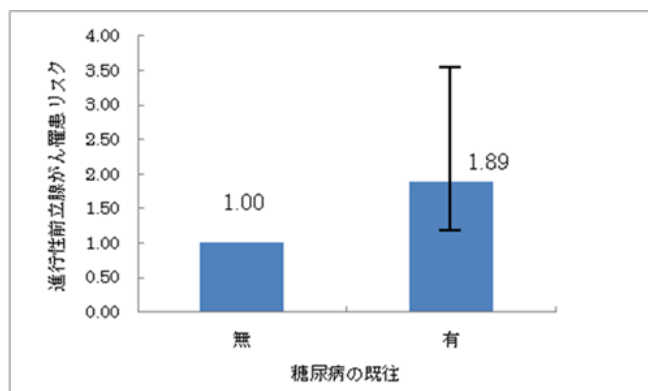
糖尿病の既往と前立腺がん罹患リスク：大崎国保コホート研究

History of diabetes mellitus and the risk of prostate cancer: the Ohsaki Cohort Study.
2010 年 Cancer Causes & Control 発表

糖尿病の既往のある人では進行性前立腺がん罹患リスクが高くなる

糖尿病の既往と前立腺がん罹患リスクに関して、欧米で盛んに研究されてきましたが、これまで一致した研究結果は得られてきませんでした。13 件行われた研究のうち、9 件は糖尿病の既往があると前立腺がんリスクは低下すると報告し、1 件の研究は逆にリスクが上昇すると報告しています。残りの 3 件の研究では統計学的に有意な関連はみられませんでした。この 13 件の研究のうちで、リスクが上昇すると報告した Leitzmann らの報告では、糖尿病の既往と進行性前立腺がん罹患リスク上昇がみられたのは、比較的やせた男性でした。もし糖尿病の既往と進行性前立腺がん罹患リスクが関連しているとすれば、アジア人、特に欧米人と比較してやせた人の多い日本人は、この関連を検証するのに適しています。そこで私たちは「大崎国保加入者コホート」のデータを解析して、糖尿病の既往と前立腺がん罹患リスクとの関連を検討しました。

その結果、糖尿病の既往が「ない」と答えた人が進行性前立腺がん罹患するリスクを 1.00 とすると、「ある」と答えた人の相対リスクは 1.89 となり、糖尿病の既往のある人では進行性前立腺がん罹患するリスクが高くなることが示されました。こうした関連は、Body mass index (=体重 kg/身長 m²) が 23 未満の男性でより顕著にみられました。限局性前立腺がんでは、このような関連はみられませんでした。



研究のデータについて

ベースライン調査：1994 年 10 月から 12 月までに、宮城県の大崎保健所が管轄する 14 市町（当時）に居住する、40-79 歳の国民健康保険の加入者約 5 万 5000 人を対象に、生活習慣に関する自己記入式アンケートを配布し、5 万 2029 人から有効回答を得ました。回答率は 95% です。

生活習慣に関する調査内容は、病気の既往歴と家族歴、体型などに関することなどの健康状態、運動習慣、喫煙、飲酒、食事などの生活習慣、職業、婚姻状況、学歴などの社会的な状況から構成されています。

追跡調査：ベースライン調査に答えていただいた方のうち、追跡開始以前に国民健康保険から脱退した方 774 人を対象から除外しました。今回の研究に関連する質問への回答に不備のあった方、がんの既往歴のある方を分析の対象から除外した、2 万 2458 人の男性を対象としました。ベースライン調査時から 2003 年 12 月 31 日までの 9 年間の追跡調査で、230 人が前立腺がんと診断されました。

糖尿病の既往について

自己記入式アンケートによって脳卒中、高血圧など 14 の疾患の既往を尋ねています。そのひとつに糖尿病が含まれ、既往歴がありの場合、さらに治療中、治療済、治療せずの別を尋ねています。

研究の特徴と限界について

糖尿病の既往の有無と前立腺がん罹患リスクについては、欧米で盛んに研究されてきましたが、日本人をはじめとしたアジア人を対象とした研究報告はなく、わたしたちの知る限り、本研究はアジアからの初めての報告です。また、進行性前立腺がんに関連がみられていることから、PSA 等で早期に発見されるがんが結果に与えた影響も最小限であると思われ、本研究結果の信頼性は高いと思われます。本研究では、自己回答によるデータを用いたため、必ずしも回答が実際と同じとは限らないのではないかと考えられます。しかしながら、アンケートの回答による糖尿病の有無が実際と違っていれば、本来の糖尿病と前立腺がんリスクとの関連を弱める方向に結果を導きますので、今回の結果は過小評価であるということになります。